

東京社会保険推進協議会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10
東京労働会館6F

tel03-5395-3165 fax03-3946-6823

東京社保協

検索

東京社保協ニュース

2015年を迎えるに当たり ご挨拶を申し上げます



昨年12月の突然の解散総選挙は、安倍内閣の党利党略による選挙であり、集団的自衛権容認問題や特定秘密保護法問題など、ほとんど論戦されぬままに寒波が押し寄せる中での選挙でした。

国民の願いを無視した安倍暴走政権に対する審判を下すべき選挙でありながら、中間政党の崩壊により、国民の願いを受け止める政党は共産党以外にない中で、戦後最低の投票率に終わってしまいました。しかし、沖縄選挙区においては、4小選挙区全てにおいて自民党候補者を落選させ、沖縄県民の意思が示されました。小選挙区制度の弊害の中で、自民党は有権者数の25%程度の得票で290余の議席を獲得し、絶対多数を確保してしまいました。強引な国会運営で、国民の思いを無視し、憲法改正などの危険性が増大しています。

しかし、共産党が議席数を2・6倍以上の21議席と増やしたことで、国民の願いを託せる橋頭堡を確保できました。また、沖縄県民の運動の実績は、日本全国民に大きな希望を与えました。この運動が、全国民の運動に結実してゆけば、安倍政権の暴走に歯止めを掛けられます。

この2〜3年は社会保障・医療・介護・福祉を守る上で特に重要な時期となってきました。今年の春には、一斉地方選挙もあります。諦めず、希望を持って、私たちの運動を旺盛に広げようではありませんか。東京社保協の更なる奮闘が求められています。今年が、希望の持てる時代を切り開く年となるように頑張ってくださいませよう。



2015年 元旦

東京社会保険推進協議会

会長 竹崎 三立

怒りの座り込み

いのちとくち、福祉と平和を守って

都老協・全国老地連

東京都老後保障推進協会と全国老後保障地域団体連絡会が主催する厚労省前の座り込み行動が、12月16日から18日の3日間行われ、のべ100人近くがこの行動に参加しました。

「年金が削られ、消費税がまた上げられたら暮らせない」「厚労省、安倍首相はこの声を聞いて」と、凍てつく寒さと雨の中、高齢85歳を先頭に、毛布やカイロ、寝袋などを用意し、泊まり込みで行動しました。参加者は、「2014年座り込み宣言」を行い、早



速、厚労省に消費税増税、生活保護改悪、後期高齢者医療保険料の引き上げ中止、医療費自己負担の減額や国民健康保険料の減免など17項目の要求書を提出しました。

この行動には、社保協をはじめ多くの団体や労働組合が激励に訪れ、日本共産党の小池晃、田村智子参議院議員、総選挙で再選された高橋千鶴子衆議院議員と新たに比例で当選を果たした宮本徹衆議院議員が連帯の挨拶にかけつけました。

(都老協 坂本光治)

各地域・団体の取り組み

葛飾社保協

11月19日、「いのち・くらし何でも相談会」を亀有駅リオパークで、テントが揺れるような強風のなかで開催しました。

相談に訪れた人数は、税金・いじめ・年金・障がい問題など多岐にわたって31人。相談会が始まると同時にかけよる人もあるなど、相談会が待たれていた様子が伺えました。

一番多かった相談は、法律関係（弁護士対応）が最多で内容も多岐にわたっています。税金のことでは、相続税や消費税問題、くらし関連では、



都営住宅の移動、年金が無く老後が心配、高齢になった、病気になったなど切実です。

この活動を始めて5年になります。定着してきたことが伺えます。しかし、始めたころと比較しますと、派遣切りなどの労働相談から、暮らし全般の相談へと変化しています。

各団体や専門家の皆様のご協力がこの運動を支えています。相談者が減るところか、増え続けていることは、この国が「生きづらい」方向に進み続けていることでもありません。引き続きがんばっていき

（事務局長 吉野 五郎）

葛飾高齢者懇談会

10月25日、葛飾高齢者懇談会結成の準備会と位置づけた、葛飾高齢者のつどいが53人の参加で開かれました。

第1部のマジックショーでみんなの肩をほぐし、第2部のはじめは、日本高齢期運動連絡会の篠崎次男さんが「ひとりぼっちをなくす高齢期運動づくり」と題して、記念講演で高齢者の現状や運動の進め方などについて話していただきました。

続いて、年金者組合の鈴木芳郎さんから、富山で開かれた日本高齢者大会の模様に触れながら、葛飾で「高齢者懇談会」を作っていこうと問題提起がされ、発足に向けて10人の世話人が決められました。（葛飾社保協ニュースより）

大田社保協

12月17日に年末街頭相談会を、JR蒲田駅西口で行いました。

大田社保協は、今年度より



2ヶ月おきにこの場所で街頭相談会を行ってきましたが、今回は、年末ということもあり、社保協加盟団体以外にも参加を呼びかけて14もの団体の共同で行い、73人が相談員、チラシ配り、弁士として参加しました。

相談員は、弁護士、税理士、社会保険労務士、議員、看護師、医療相談員、ケアマネージャー、守る会役員、労働組合役員という顔ぶれでした。また、新婦人大田支部のみなさんによる豚汁の炊き出しもありました。

相談件数は21件でした。弁護士相談が8件、税理士相談



が6件と多く、相続関係や近隣のトラブルなどの相談が多数でした。中には、「上司の責任で事業所が閉鎖され、そのために解雇されてしまった。話し合いで解決しているが、悔しくてしょうがない」という相談や、「非正規で働く子どもと同居しているが、自分は無職なため、子どもの収入だけでは生活が成り立たない」といった深刻な内容の相談もありました。若者が、非正規労働やアルバイトでしか働けない雇用実態の酷さ、生活保護制度の狭間で苦しんでいる人がいることの実態を痛感する内容でした。継続して相談できる団体でフォローしていきます。

今回は、すぐに区役所で生保の手続きをしたという事例はありませんでしたが、今後、このような相談会に寄せられた相談を、複数

の専門家や団体で共有し、深刻な事例については共同してフォローする体制づくりが課題です。

(事務局長 野口 修二)

渋谷社保協



12月24日に、渋谷社保協「何でも相談会」を渋谷駅西口モアイ像前で、8団体12人の参加で開催しました。

税金相談では、30代の息子と二人暮らしの70代の女性から「税金が高い」と悲鳴の声が寄せられました。年金収入と二人の稼働収入を合わせて年間200万で生活していて「生活が苦しい」と話をしていました。「扶養者控除など利用して非課税世帯に」とアドバイス。医療相談では、「医療費に使用



えるお金が無い」というので、民医連代々木病院を受診して医療費の相談が出来るから「とにかく受診して治療しましょう」と対応しました。

その他、法律相談、労働相談、DV被害など8件の相談が寄せられました。

(渋谷社保協ニュースより)

西多摩社保協

日の出町が70歳からの医療費助成を全会一致で可決

日の出町は、すでに75歳以上の医療費無料化に取り組み、他の福祉政策とも相まって医療費抑制の実績も出ています。

12月議会で、70歳〜74歳の高齢者の医療費助成制度を全会一致で可決しました。

助成額は、月の自己負担限度額は2000円で、それを超えた部分が助成される仕組みです。

昨年の町長選時の公約が実現したもので、地域からも「待ってました」との喜びの声が聞こえるようです。

(社保協ニュースより)

介護をよくする東京の会総会

日時：1月29日(木) 18時30分～
会場：東京労働会館3階東京民医連会議室
記念講演

安達 智則氏
(医療法人健和会「医療福祉調査室」室長)

1月～3月・集中宣伝行動 ハガキ付きチラシを活用して

医療や介護に対する人々の負担と不満は膨らみ続けており、もはや我慢も限界です。

東京社保協は、東京土建と共同して、通常国会に向け「憲法をいかにして、安全・安心の医療・介護を実現する」国会請願署名に取り組みます。

すでに、各地域には受取人払いの署名付きチラシを一定枚数配布しましたが、追加注文は、各地域に配布した「署名付きチラシ注文票」で申し込んでください。
なお、この署名付きチラシとは別

に、通常の署名用紙も今月中旬までには、各地域に配布する予定です。署名行動の際の署名用紙などで活用して下さい。

医療 いのち削る医療改善

【医療ビジョン】作成で病床数を大幅削減
2025年 159万床 43万床削減 2026年

医療費抑制を自治体に押し付け
医療費抑制分は自治体負担
国庫補助は減らさず、自治体負担は増やさない

入院の食事療養費の自己負担額 260円⇒460円以上に引き上げ
1か月入院すると18,000円もの負担増!

紹介状なしの大病院受診で定額1万円
●患者半出費制度の創設で混合診療の拡大
3割負担に加え自己負担がどんどん増える!

郵便はがき 170-8790
東京都南大塚2-33-10 東京労働会館6階
東京社会保障推進協議会 印

いつでもどこでも
安全・安心の医療・介護を

介護 介護でも改善はつく改善

介護保険の分府でも前度始まって以来の大改善が白紙です。

要支援者の訪問介護、デイサービスを縮小・打ち切り

「居宅」から「施設事業」へ移し替え

介護費用が増える! 区市町村が実施する「施設事業」でヘルパーなど専門職による「専門サービス」が、ボランティアによる「居宅サービス」にどんどん押し替わります。

新たな体制分けのしくみで介護は「物別れ」へ

憲法をいかにして安全・安心の医療・介護の実現を求め国会請願署名

●請願理由
高齢者が暮らす人々の権利と生活の質を脅かす。もはや我慢も限界です。このまま、高齢者介護の負担はますます自治体・国民の負担に押し付けられ続けます。また、医療費抑制の策として、公的医療給付の削減が国民の健康と命を脅かす。また、医療費抑制の策として、公的医療給付の削減が国民の健康と命を脅かす。また、医療費抑制の策として、公的医療給付の削減が国民の健康と命を脅かす。

●請願事項
1. 医療費抑制の策として、公的医療給付の削減を中止し、国民の健康と命を守る。2. 介護費用を増やさない。3. ヘルパーなど専門職による「専門サービス」が、ボランティアによる「居宅サービス」にどんどん押し替わらない。4. 介護費用を増やさない。5. ヘルパーなど専門職による「専門サービス」が、ボランティアによる「居宅サービス」にどんどん押し替わらない。



第45回東京社保協総会

日時 2015年3月1日(日) 10時～4時(予定)

会場 けんせつプラザ東京

加盟各団体から2人以上の参加を

10時から学習会開催

無料 学習会のみ参加も歓迎!



講師
芝田英昭
立教大学教授

